

令和7年度 第4回川崎市社会教育委員会議麻生市民館専門部会 摘録

日時 令和8年2月15日(日) 午後3時45分～午後4時53分

開場 麻生市民館大会議室

■出席委員 市民委員(部会長) 浜田 富美恵
川崎市立麻生中学校校長 金子 三弘
麻生区文化協会副会長 横川 博行
麻生区地域教育会議議長 名古屋 洋一
麻生区町会連合会常任理事 岡倉 進
市民委員 田澤 梓
和光大学現代人間学部非常勤講師 角田 季美枝(途中参加)

■欠席委員 麻生区PTA協議会副会長 前村 嘉昭
麻生市民館サークル連絡会副会長 平出 圭子

■事務局 麻生市民館相澤館長、岡上分館村野館長、管理係内藤担当係長、
社会教育振興係松本課長補佐、齊藤主任

■関係者 あさお・未来共創パートナーズ(川崎市生涯学習財団 中村) 1名

■傍聴者 1名

専門部会の委員9人中7人が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

1. 開会・挨拶

- ・部会長として開会挨拶。長時間に及んだ提案会のお礼。時間も限られていることもあり円滑に議事を進めたい。(浜田部会長)
- ・昨年度はテーマが決まらず議論が長期化したのが、今年度は事前勉強会や他の館のヒアリングを行う等、進めていくことができた。また、報告書案を書いていただいたので本日は内容について確認してほしい。(相澤館長)

2. 市民館工事の進捗報告(内藤係長)

今年度の補修・工事状況を説明

(1) 完了済工事

- ・館内映像用延長機器の補修
→異常音と映像乱れが発生し8月に修繕完了
- ・受水槽更新工事
→老朽化に伴い1月の貸館停止期間中で更新完了
- ・第2及び第3会議室の床・壁紙更新
→経年劣化が著しかったため1月に全面張替え

- ・ホール扉フロアヒンジの補修
→勢いよく閉まる危険状態が続いていたため補修

(2) 予定工事（年度内実施予定）

- ・ホールスピーカーの不具合補修
→一部無音・歪み箇所があるため、年度内交換予定
- ・傾きがあるホール座席の固定補修
→ 倒れ込みの危険があり、床金具を増設して固定する予定

(3) その他

- ・2階外部タイルは道路公園センターが仮補修対応
- ・空調ヘッドバルブ・和室換気扇は可能なら年度内対応
→ 風量不足の指摘あるため業者と調整中
- ・天窓ドームのひび割れは来年度以降対応予定
→ ひび割れ確認 現時点では雨漏りなし 来年度計画で対応

<岡倉委員>

指定管理制度開始後も同レベルで修繕されるか。

<事務局（内藤係長）>

小規模修繕は指定管理者、一定の額を超える場合は市、大規模のものは市まちづくり局が対応することになる。

3. 令和6・7年度 報告書案の確認

第3回摘録は修正反映済み。本日確定としたい旨を説明。（相澤館長）

参照資料 ・「PDCA 導入案」（岡倉委員作成）

・「市民館だよりのあり方」（角田委員作成）

(1) PDCA 導入提案に関する報告書

A 内容の検討について

<浜田部会長>

「経緯→課題→改善提案」の流れが整理され非常に理解しやすい。市民館の事業運営における課題の可視化と改善提案が明確である。

<岡倉委員>

時間的制約から簡潔化した部分もあるが、提案内容として問題ないと思っている。

<田澤委員>

PDCA 案は報告書に添付されるか。

<事務局（相澤館長）>

本文は簡潔にし、詳細資料として別紙添付する構成にする。

(2) 市民館だよりの「今後のあり方」報告書案

<浜田部会長>

報告書案を精読したところ、本文に「部会で議論した内容」と「参考資料」が混ざっており、読む側にとって何が議論で何が背景資料なのか判別が難しい。報告書は本来、専門部会が正式に検討した内容を中心に記載し、補足資料は本文から独立させるべきでは。また、報告書は市民に公開されるものであるため、本文が冗長になると内容を把握しづらくなるのでは。

<横川委員>

俳句裁判のような社会教育法に関わる背景説明が本文に含まれているが、専門部会として議論していないのに報告書に掲載するのか。これらは背景理解のための参考資料として扱うべき。さらに、資料の分量が多すぎると、読む側が「何を読み取ればよいのか」わかりづらくなると思う。

<浜田部会長>

本文では、部会として「何を議論し」「どのような結論に至ったか」を明確に記載する必要がある。参考的な要素を本文に入れすぎると、本来の議論内容が埋もれてしまう可能性がある。

※角田委員参加

<角田委員>

- ・参考資料を多く本文に掲載した意図を説明。

市民館だよりが「社会教育法の対象である市民館の広報物」である以上、政治的中立性や表現の自由など、編集上の制約や法律上の枠組みを理解してもらうことが重要である。そのため、その背景情報として、九条俳句裁判の事例や他の自治体資料などの URL をリンク先として本文に掲載した。九条俳句裁判については前回時間がなくて議論していない。今回検討してほしい。

<岡倉委員>

そういうことであれば、報告書の中では参考資料としてまとめていただければそれで良いと思う。

<田澤委員>

今の時点だと、今まで会議を重ねてきた内容と、参考資料が混ざってしまっている。そのため、話し合ってきたことをまとめて、もし参考資料とするなら、参考資料という枠を別途つけて、ここについてはこれが参考資料ですと分けて表示されていけば良いと思う。今の報告書案だと私たちの議論と混ざってしまっているという気がする。

<角田委員>

コラムの方がその本文に対応して見ることができるからコラムにただけなので、田澤委員の意見のような表記の方法ということで、本文のところに資料 1、2 などとし、本文が終わってから資料 1、2、3 とする方が良ければそのようにする。

<浜田部会長>

市民館だよりの記載の部分についてであるが、専門部会で、やはり議論した内容と、参考資料として出した内容が、ここも混在していると感じられる。発行第

1号からどういう歩みを辿ったかという内容は、報告書の記載としては、いかがか。5ページぐらいその流れの文章が続いている。むしろ中原市民館と高津市民館のヒアリングした部分が一番重要に思う。

<角田委員>

それではこれも修正する。

市民館だよりの記載は、私が文章で説明するよりも、実際の紙面を写真などで見せた方が早いのではと思いつつ、それは難しいので、文章にして紹介みようとしたものである。

ただ、ヒアリング結果だけを検討したわけではない。文化センターだよりからの過去の便りも見て、検討している。その内容はどうやったら逆に短縮して紹介できるでしょうか。

<浜田部会長>

逆に丁寧にここまで書いていただいたのに恐縮しているが、やはり報告したい、強く皆さんに伝えたい部分とていうのが埋もれてしまうのはもったいないというか、一番私たちが皆さんに伝えたいこと、報告したいことがちゃんと伝わるように仕上げたい。

<田澤委員>

表とかにならないのでしょうか。市民館だよりの変遷を表とかにならないでしょうか。

<角田委員>

これをまとめて一覧表にすることはできない。

<田澤>

背景を知るのは非常に重要だと思うが、背景を文章で綴るのはお腹いっぱいのような感じだと思う。

<岡倉委員>

文章が長いから、少し修正してまた委員の中で共有してもらい、それで意見を聞いていくというようにしないと、この場では時間的に厳しい。

<角田委員>

今後の参考にしてほしいから、これまでの変遷を載せたのである。だから「今後読まれる市民館だより」、「双方向性のコミュニケーションを喚起するような市民館だより」というのは、過去にはあったわけなので、それがどんな紙面だったのかということ伝えておいた方が良いと思っている。

<田澤委員>

これらの資料はどこかにアクセスしたら URL で見られるようにはできないか。

<角田委員>

URL では見られない。現物（合冊版）を麻生図書館で閲覧するしかない。そもそも市民館だよりが保管されていること自体が皆さん知られていないと思う。現在の市民館だよりは講座の案内だから読んだら捨てられるだろうという感じではないかと思う。そういうものではなく、地域の資料として図書館に保存され、過

去に川崎市がどういったことを行い、市民が何を要望していたかという調査をやると思った時にこの市民館だよりが参考資料になってほしいと思っている。

<名古屋委員>

報告書の分量に上限はないと言っても、読む側のことを考慮するとわかりやすくまとめた方が良い。細かく資料を集め、状況や背景も調べていただいた資料がありますが、「2」のところの、麻生市民館だよりの今後のあり方の検討についての調査結果、ここの全体の文章はそのまま活かせる。その後の麻生市民館だよりの変遷「1」と、「2」の中原市民館、高津市民館のヒアリング調査の結果を載せている。それと、その他の自治体の公民館だよりを調べてみるという3点を調査している。資料は以下のとおりで、その他いろいろな意見があった中で、今後の麻生市民館だよりのあり方についてまとめている、この3点だけが文章、あとは全て参考資料というのがよいのではというのが私の意見である。

<岡倉委員>

それで、そのあり方を深めたいとしていく。

<名古屋>

そのとおり。今後も検討していくということを参考資料のところから読み取って、確認することができるようにする方がわかりやすい。紙面に上限がないからといってすべて載るだけだとたぶん皆は見ない。せっかくの報告書も見なくなってしまう。資料としてまとめてあれば、「今後の麻生市民館だよりのあり方の検討をした、市民館だよりの方向性というのはこういう形でまとめた。参考資料は以下のとおり。」という記載の方法が私としてはわかりやすいと思う。報告書の前に要約を読むのでその方が読みやすい。活動報告書でそういうスタイルは、あまり見たことがないが、麻生市民館の報告書の編集については参考資料を全部後ろにして、読んでほしい柱だけ出しておくという方法はありかなと思う。

<角田委員>

今までの報告書のスタイルはそうではなかった。特に形式的に決まったパターンがあるわけではないので、それはそれで良いと思う。「こんな風にしました」というぐらいの一言を報告書に入れるとか。

<名古屋委員>

それは大事だと思う。データはやっぱり記載しておかないと何をしていたかも全然わからないし、集めた人が報われる部分を出すということは大事だと思う。

<角田委員>

そうでしょうか。それは私が作業を試みる。ポイント的にはこのようなことがあったということを入れておいて、詳しくは資料参照といった感じにするのもありかもしれない。ヒアリング結果もそうするのでしょうか。ヒアリングについては「このようなことをこういう風に意見をもらって、しかも中原と高津の発言部分も内容をチェックして書いたものであるが、それを資料とするのは、岡倉委員どうでしょうか。

<岡倉委員>

最初はそのように言ってませんでしたか。資料として最後に入れますと。せつ

かくまとめたものでもある。

<角田委員>

6 ページから 10 ページの頭ぐらいまでも全部資料という感じでしょうか。

<名古屋委員>

そうだと思う。

<角田委員>

資料が多い。

<名古屋委員>

でも、資料がなかったらという指摘がある。また、根拠が必要になるし、
そういうまとめの方が端的なのではと思う。その方がわかりやすい。

<角田委員>

いつまでに修正すべきか。修正はメール送付でよいか。

<事務局（相澤館長）>

3月までに送付をお願いしたい。

4 その他

それでは、前回（第3回）の摘録はここで承認。

会議終了 閉会

以上